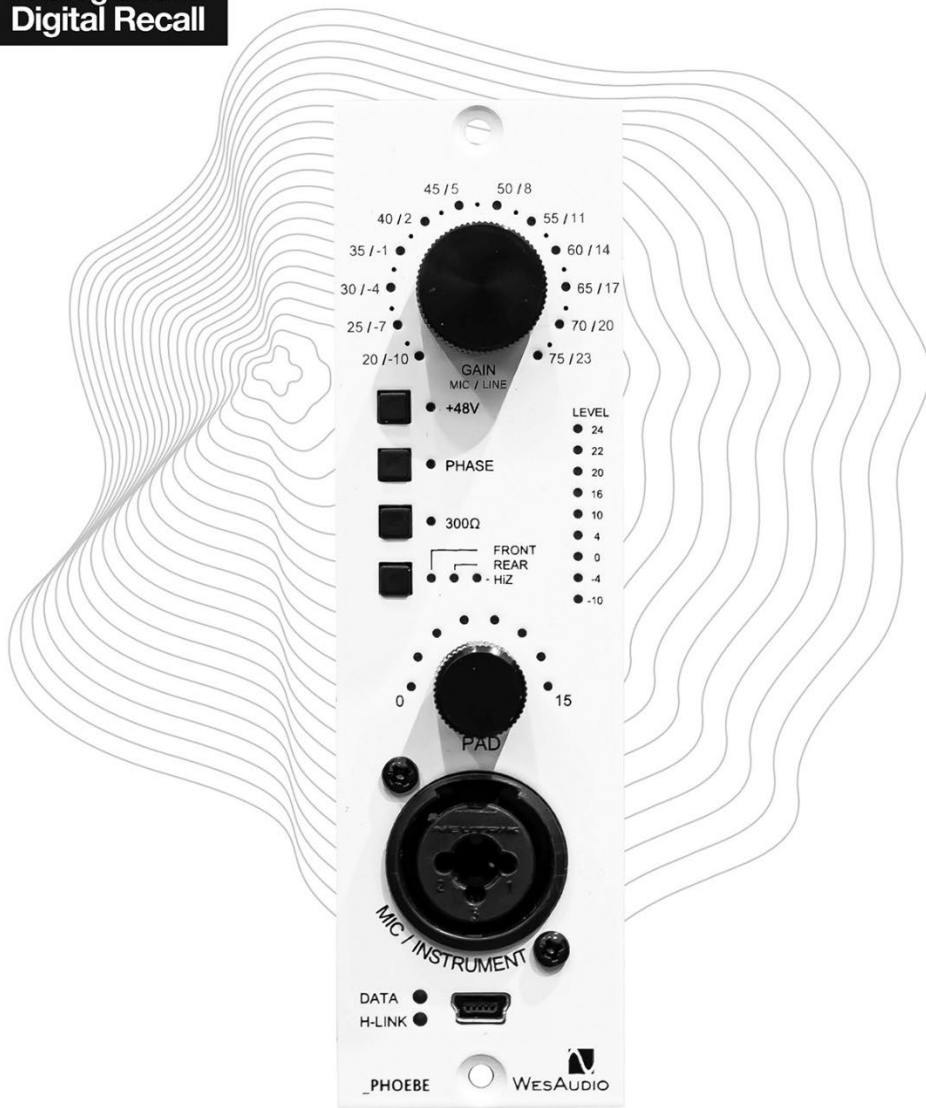


Analog Sound
Digital Recall



WESAUDIO

WesAudio _PHOEBE

日本語マニュアル

<https://umbrella-company.jp>

_PHOEBE をお買い上げいただきありがとうございます

_PHOEBE は、

VST2/VST3/AAX/AU プラグインからデジタル制御可能な

クラス A のアナログのマイク・プリアンプです。

Radoslaw Wesolowski and Michal Weglicki

_PHOEBE は、WesAudio による 新世代 500 シリーズ ラインの製品です。

マイクプリアンプの最も高貴なキャラクターが、デジタルワークフローと完全に統合されました。最もモダンな機能を備えたデュアルアンプのビンテージ NEVE1073 スタイルのデザイン！ _PHOEBE は NG500 フル・アナログ、クラス A マイク/ライン/インストゥルメント プリアンプであり、ng シリーズのデジタルリコール機能を搭載した製品です。



Table of Contents

1.	Introduction.....	6
2.	Main Features.....	6
3.	Specification.....	7
4.	Module installation and compatibility.....	8
5.	Front Panel.....	11
6.	Gain.....	13
7.	VU Metering.....	13
8.	Stereo vs Mono.....	13
9.	Front vs Rear.....	14
10.	HiZ – instrument mode.....	14
11.	+48V Phantom power!.....	15
12.	Software.....	15
5.1.	Installation.....	16
5.1.1.	Windows.....	16
5.1.2.	OSX.....	17
5.1.3.	Troubleshooting.....	17
5.2.	Plugin.....	19
5.2.1.	How does it work?.....	19
5.3.	How to connect a unit to a Plugin-in?.....	20
5.4.	DAW Plug-ins.....	21
6.	Hookup diagrams.....	23
6.1.	Hookup diagram – _PHOEBE in _TITAN: Recording.....	25
6.2.	Hookup diagram – _PHOEBE in _TITAN: Recording & Mixing.....	26
6.3.	Hookup diagram – _PHOEBE and _CALYPSO in _TITAN: Mixing and Recording.....	27
6.4.	Hookup diagram – _PHOEBE in 500 Series chassis: Recording.....	27
6.5.	Hookup diagram – _PHOEBE in 500 Series chassis: Recording & Mixing.....	29

6.6.	Hookup diagram – _PHOEBE in 500 Series chassis: Recording (HiZ) & Mixing	30
6.7.	Other examples	31
6.8.	Setup for mixing	31
6.8.1.	HW insert/External effect in DAW	31
6.8.2.	Direct output in DAW	32
6.10.	Memories	33
6.10.1.	Synchronization upon connection	33
6.11.	Automation	33
6.11.1.	Automation record	34
6.12.	Pro Tools Integration	34
6.13.	GCon Manager	35
6.19.1.	How to check firmware version	36
6.19.2.	How to perform firmware upgrade	36
7.	Factory reset	38
8.	Troubleshooting	39
8.1.	モジュールがフリーズし、エンコーダの移動に反応しない	39
8.2.	モジュールがプラグインに接続できない	39
8.3.	モジュールが勝手に切断される	39
8.4.	モジュールが接続できなくなった	40
8.5.	(WINDOWS) 本体がプラグインに接続できない	40
9.	Abbreviations and terms	40
10.	History	40

1. Introduction

_PHOEBE は、デジタル制御を備えた完全なアナログユニットです。オーディオ処理は、アナログのコンポーネントのみを介して行われます。 デジタル側でそれを完全なコントロール下に置くことでユニットのデジタルリコールとリモートコントロールを実現しています。

2. Main Features

- +28dBu のヘッドルームを備えた 100% アナログ回路のマイク/ライン・プリアンプ
- NEVE1073 スタイルのクラス A 回路設計
- 最大 75dB のマイクゲイン
- 英国 Carnhill 社製の最高品の入出力トランスフォーマー採用
- クリップ検出機能を備えたフロントパネルの出力信号メーター
- ファンタム電源とフェイズリバース
- 切り替え可能な入カインピーダンス (1200/300Ω)。
- すべてのコントロール/アナログ設定は、WesAudio GCon DAW プラグインから完全に管理できます
- IRON PAD - 1 dB ステップのパッシブ出力減衰回路 (出カトランスの後)
- HiZ 楽器入力(TS)、ライン入力(XLR)、マイク入力(XLR)をサポートするフロントパネルの XLR/TRS 端子
- シャーシリアの XLR ソケット、またはフロントパネル (XLR/TRS) をリコール可能な信号ソース
- 500 シリーズと ng500 (例 : _TITAN) シリーズに対応
- ほとんどの DAW と互換性のあるトータル リコールとプラグイン コントロール。
- DAW のアナログオートメーション
- 完全にデジタル制御され、アイソレートされたアナログ回路
- パネルミニ USB ソケット、または _TITAN シャーシ内での使用でデジタルリコールを実現
- プラグイン自体に実装された正確なアナログ出力信号メーターとその正確なシミュレーション
- 無料のソフトウェアとファームウェアのアップグレード。

3. Specification

Frequency response	+/- 0.5dB 20Hz-20kHz; -3dB at 50kHz
Distortion	0.005% at 1kHz at +20dBu output
Line input impedance	5.5k ohm bridging
Microphone input impedance	300/1200 ohm
Noise	unity gain (better than -100dBu) Max gain +75dB (better than -70dBu)
EIN	better than -120dB
Max power consumption	170mA(+16V); 100mA(-16V)
Dimensions	38x133x145mm

4. Module installation and compatibility.

WesAudioの_PhoebeはAPI500シリーズ（APIアライアンス）用のモジュールです。単体では使用できませんので、必ずAPI500シリーズ互換の電源ラックにマウントしてご使用ください。WesAudioの専用電源ラックも発売されています。

WesAudio _Phoebeモジュールは、API™500シリーズ互換ラックまたはng500ラック（例：_TITAN）にインストールするように設計されており、スタンドアロンで機能することはできず、ラックシステムから電源を供給する必要があります。

注意：ユニットは、消費電力と真空管のためにかなりの量の熱を生成します。適切な空気循環を可能にするために、シャーシの上下に空きスペースを残すことを強くお勧めします。理想的には、上に 1U スペース、下に 1U スペースです。

また、電源投入時の突入電流（rush current）は条件によっては定格より大きく流れる場合もございます。万が一正常に起動しない場合には再度電源を入れなおしていただく事でほとんどの場合は解決できます。



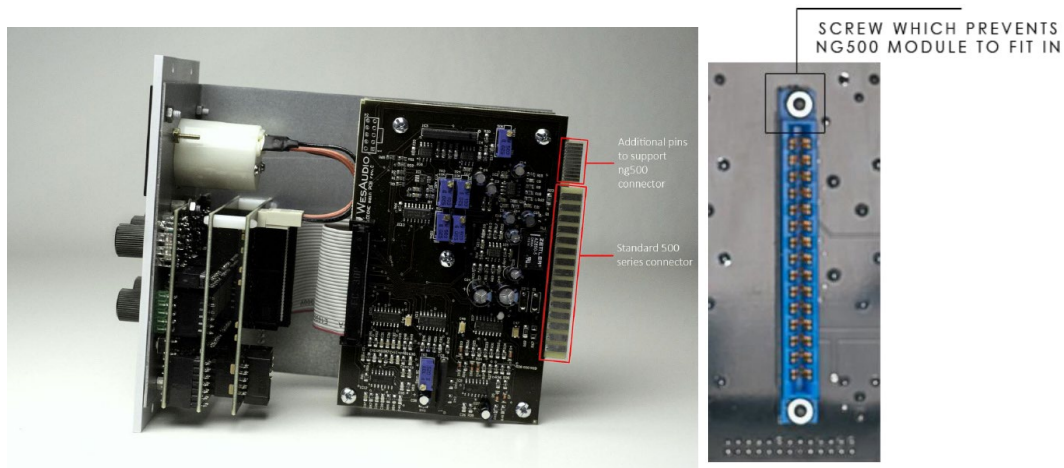
重要な注意(必ずお読みください)

電源ラックに製品をセットアップする場合は、
「完全に電源を抜いた状態」で行ってください。

!!!ユニットは高電圧で動作しています!!!

!!電源がオンのときには、絶対にモジュール内のコンポーネントに触れないでください!!
感電の恐れがあります！！

モジュールの設置について



ng500(Next Generation 500)では、標準のAPIモジュール共通のコネクターの上に専用のng500コネクターが装備されています。ng500対応の電源ラックである_TITANなどを利用すると、このコネクターによりGConプロトコルを通信できるようになり、設定のリコールなどの情報をやりとりできます。

以下の API500 互換ラックでご使用になりたい場合には、必ず事前にご相談ください（そのままでは挿すことができません対応が必要です）。

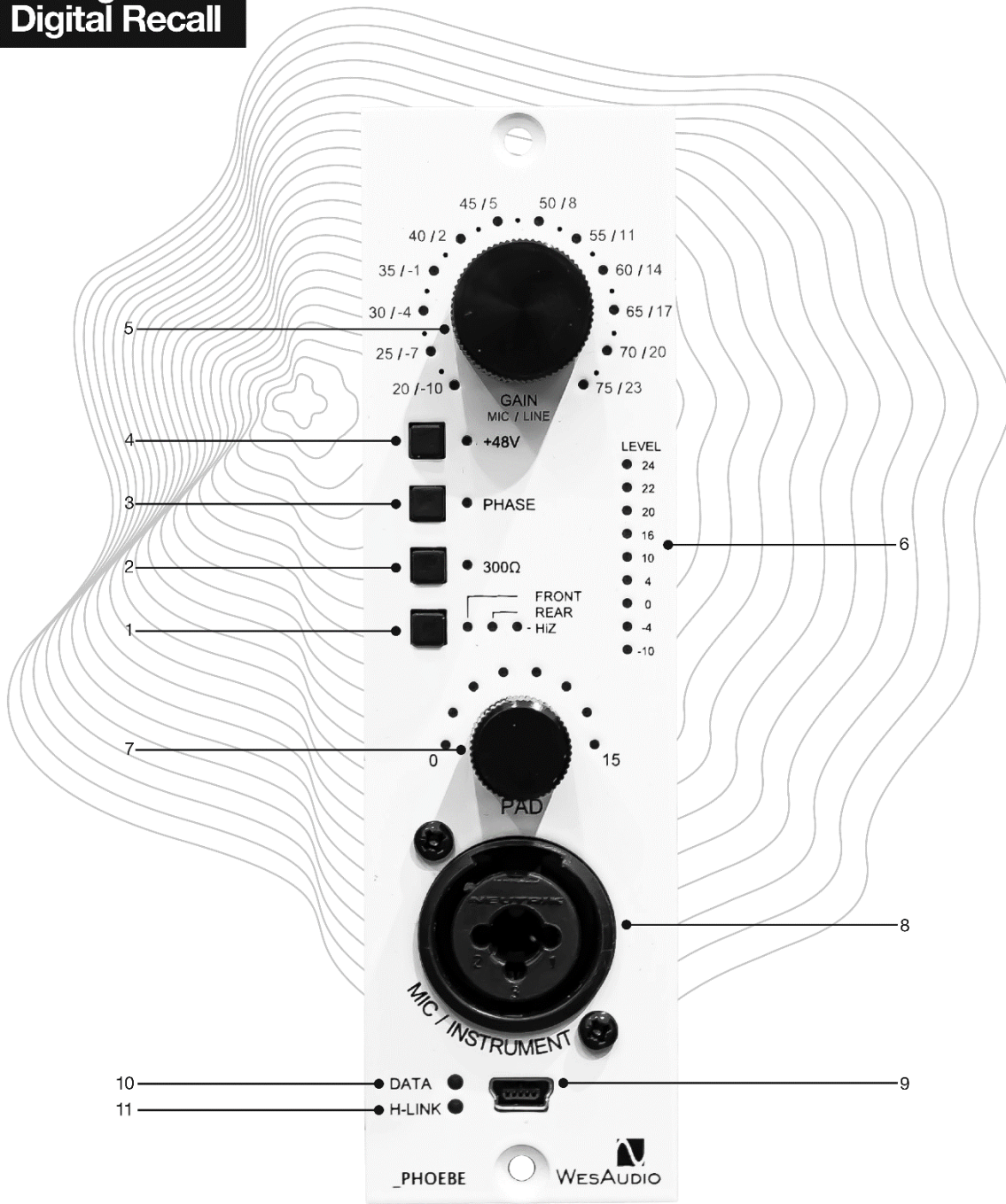
- 1) Rupert Neve Designs 500 シリーズラック（R6 および R10） 、
- 2) Aphex 500 シリーズラック、problematic_screw-copy
- 3) いくつかの古い BAE ラック（現在は製造されていません）。
- 4) Midas L6/L10 -モジュールはスロット位置によって最後までフィットしません。

* Rupert Neve Designs を含む、大抵のケースでは電源ラックのスロット上側のねじを外すことで WesAudio の ng500 モジュールを挿入することができます。

次の URL に詳細のインストールがごさいます。 http://wesaudio.com/r6_mod/

5. Front Panel

Analog Sound
Digital Recall



WesAUDIO

-
1. **FRONT/REAR SWITCH** – リア XLR ソケット (LINE/MICROPHONE) とフロントパネル XLR/TS ソケット (LINE/MICROPHONE/INSTRUMENT) の間に入カソースを切り替えるスイッチ。 TRS ケーブルがソケットで検出され、FRONT モードが有効になると、HiZ LED が有効になります。
 2. **300 OHM IMPEDANCE** –このボタンは、300 オームのインピーダンスを有効にします (デフォルトは1200 オーム)。
 3. **PHASE** – 位相を反転します。
 4. **PHANTOM POWER** – +48V ファンタム電源を使用します。 LINE モードまたは HiZ モードがアクティブな場合は自動的に無効になります。
 5. **GAIN knob** – プリアンプのゲインを設定します / エンコーダーを押して LINE と MICROPHONE モードを切り替えます。
 6. **VU METER** – VU メーターは最大 +24dBu の出力レベルを表示し、内部 CLIP が検出されるとすべての LED が赤に変わります。
 7. **PAD** – 1dB ステップで最大 15dB のパッシブアッテネーター。
 8. **FRONT PANEL XLR/TRS** – FRONT モードがアクティブなときにソケットがアクティブになり、LINE、INSTRUMENT、または MICROPHONE 信号をサポートします。
 9. **USB** –USB ポート
 10. **DATA LED** –データが DAW からデバイスに送信されていることを示します
 11. **H-LINK LED** – ホストモジュール接続の状態を示します

6. Gain

ユニットは、マイク、ライン、および楽器モードのさまざまなゲインレンジで動作します:

- マイクゲイン: 20dB - 75dB
- ラインゲイン: -10dB - 20dB
- インストゥルメントゲイン: 20dB - 75dB

75dB の GAIN では不十分な場合は、低入カインピーダンス モード (300 OHM) をオンにすることで、信号もさらに数 dB 上昇します。

7. VU Metering

フロントパネルとプラグインメーターは「PAD 前」の出力値を表示します。

CLIP を検出すると前面 LED が全て赤色に点灯します。

8. Stereo vs Mono

_PHOEBE は、シングル・スロットのモノラル・プリアンプですが、デジタル制御により、モジュールをステレオリンクすることが可能です。ステレオプラグインを開いて 2 つめのデバイスを接続するだけでこれを実現できます。すべてのコントロールが相対的にリンクするため、1つのノブを回すだけで、2番目のチャンネルが追従します。

9. Front vs Rear

_PHOEBE はデジタル制御を利用して、次の 2 つのメモリバンクを提供できます。

- FRONT bank A.
- REAR bank B.

つまり、リアまたはフロントを有効にすると、パラメーターの異なる値がアナログ回路で使用されます。プラグインや他のユニットと非常によく似た方法で機能しますが、A (フロント) を有効にすると常にフロントパネルが有効になるという違いがあります。XLR/TRS ソケット、および B (REAR) は、シャーシのリア XLR を有効にします。これにより、2 つの異なるソース (マイクをシャーシのリア パネルに接続し、DI またはライン レベルをフロント パネルの XLR/TRS ソケットに接続するなど) を接続しっぱなしにすることができます。そのため、プラグインがなくても、1 つの魔法のボタンを使用するだけで、これら 2 つのソースと設定を簡単に切り替えることができます。

フロント パネル ソケットは次の信号をサポートします。

- マイクロホン (XLR)
- ライン(XLR)
- 楽器 (TS)

リア パネル ソケットは次の信号をサポートします。

- マイクロホン (XLR)
- ライン(XLR)

10. HiZ – instrument mode

インストゥルメントモード (HiZ) は、次の 2 つの条件が満たされると自動的に有効になります。

- フロントパネルモードがアクティブ
- TS ジャック ケーブルをフロント パネルの TS ソケットに挿入

11. +48V Phantom power!

+48 ファンタム電源です。内部回路の設定によってファンタム電源のオン/オフにはいくつかのルールがあります。

- LINE ゲイン モードでは、常にファンタム電源が無効になり、フロント パネルとプラグインの両方で応答しなくなります。
- HiZ モードでは常にファンタム電源が無効になり、フロント パネルとプラグインの両方で応答しなくなります。
- FRONT と REAR の設定を変更すると、上記の両方の設定が適用されます。つまり、REAR が LINE に、FRONT が MICROPHONE ゲイン レベルに設定されている場合、FRONT を REAR に変更すると、ファンタム電源が自動的に無効になります。

12. Software

ソフトウェア パッケージは、関連するハードウェア・ユニットを購入した人なら誰でも

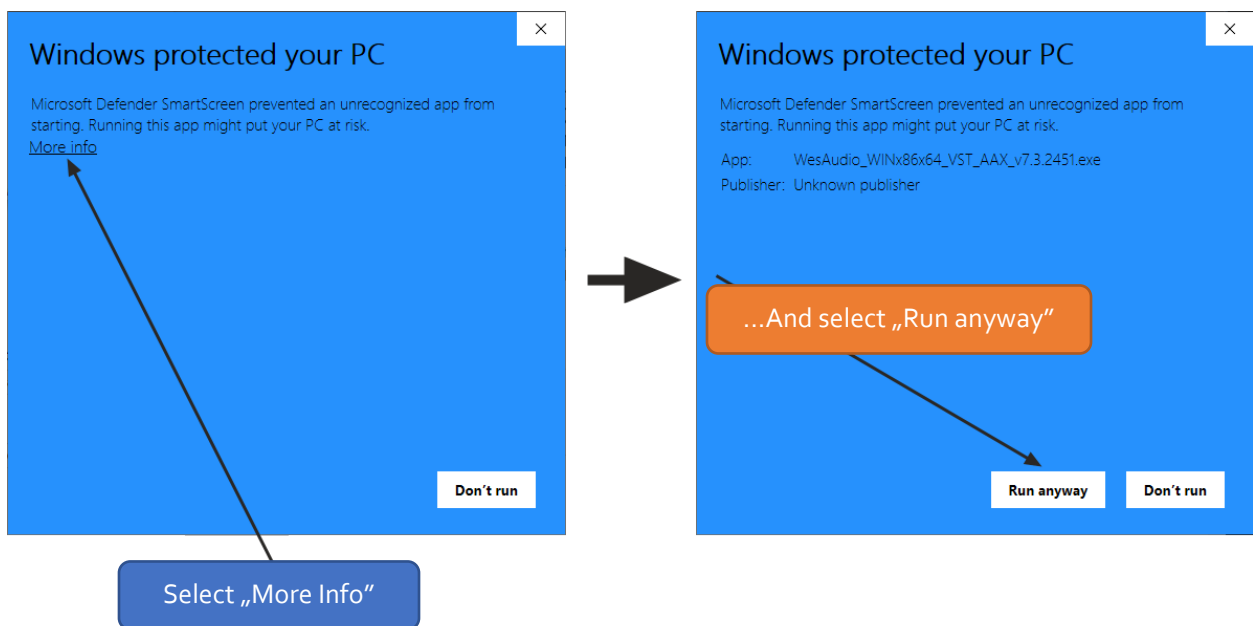
<http://www.wesaudio.com/download> からダウンロードできます。

5.1. Installation

プラグイン バンドル パッケージをインストールするには、<http://www.wesaudio.com/download> にアクセスして、最新バージョンのソフトウェアをダウンロードしてください

5.1.1. Windows

インストーラー アプリケーションを起動します。このインストーラーに関するシステム警告が表示された場合は、無視してください (*):



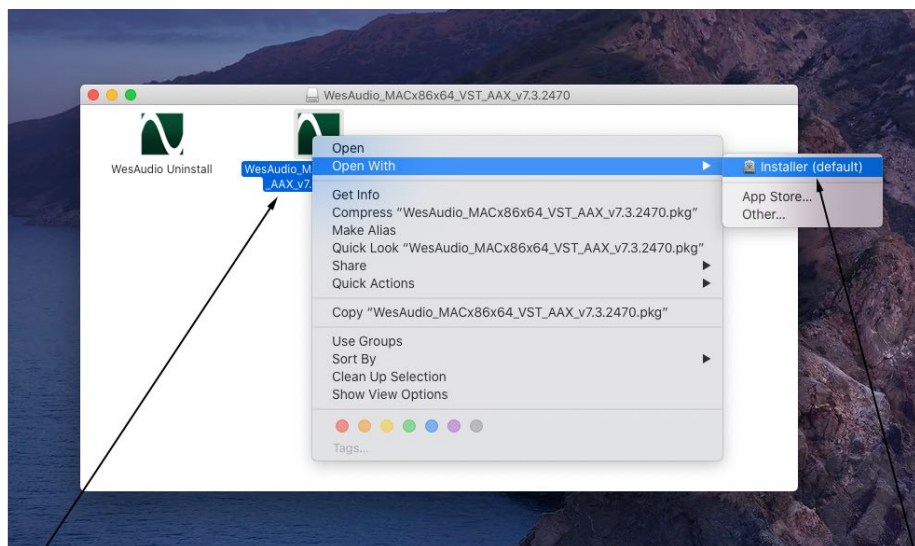
インストールするコンポーネントを選択する (**)

- 初めてインストールする場合は、WesAudio のデバイスをすべてワークステーションから取り外してください。
- USB ドライバがインストールされると、すべてのデバイスを接続する必要があることが通知されますので、接続してください。
- コンピュータを再起動した場合、本インストーラーは起動時に再スタートします。何らかの理由で再起動後にインストーラーが起動しない場合は、再度手動で同じインストーラーを起動してください。

5.1.2. OSX

OSX のアーキテクチャと USB デバイスの扱いはとてもシンプルです。注意すべき点はインストール手順の間ですべてのデバイスが接続されていることです。

インストーラを起動し、このインストーラに関するシステム警告が表示された場合は無視してください * (マウスの右ボタンでコンテキストメニューを開き、もう一度インストールを起動する必要がある場合もあります)。



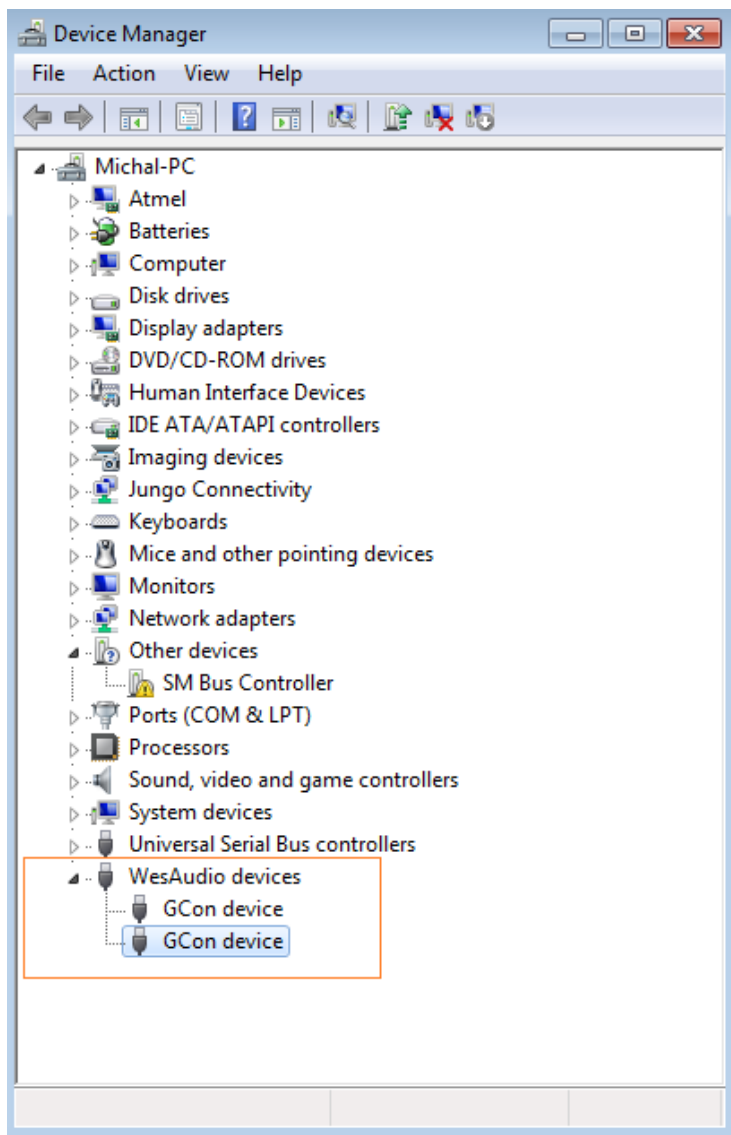
RIGHT CLICK or CONTROL+ left click

And select Installer(default)

5.1.3. Troubleshooting

"プラグインドロップダウンメニューで"デバイスを見つけることができません"/"Can't find my device on plugin drop down menu"と表示される場合、残念ながら、根本的な原因は何十個もある可能性があります。Windows マシンでは、USB デバイスがシステムレベルで正常に接続されているかどうかを確認することが非常に重要です。こ

これは「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」で確認することができます。



リスト上の GCon デバイスの数は、接続されている WesAudio ユニットと同数である必要があります。

もしリストに WesAudio デバイスが見つからない、またはデバイスの数が一致しない場合はトラブルシューティングの手順が全く変わってきます。

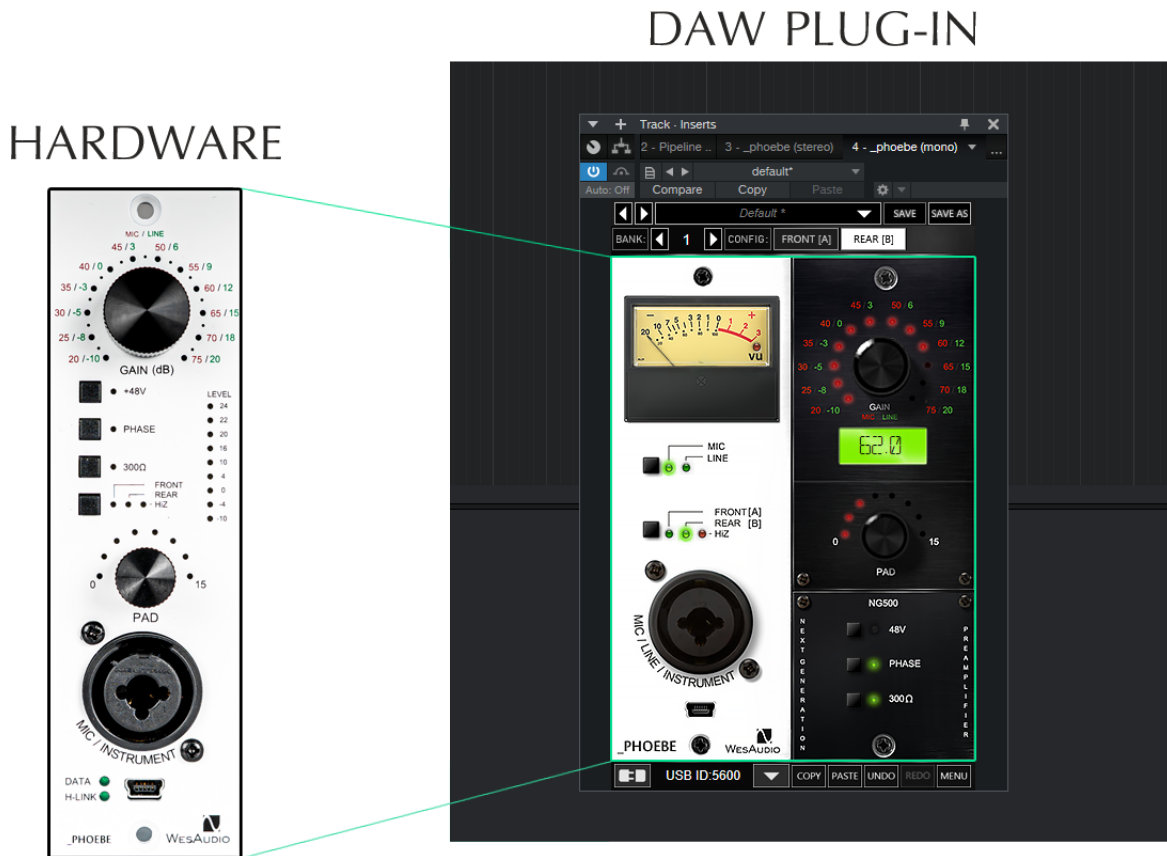
* Windows や OSX のような OS は、ソフトウェアの署名に厳しい制限があり、小規模に配布されるソフトウェアとは相容れないものです。このような警告は無視してください。私たちは、ソフトウェアがチェックされ、ウイルスや不要なマルウェアオブジェクトが含まれていないことを保証しますので安心してください。 _

5.2. Plugin

_PHOEBE は完全なアナログ・デバイスであり、デジタル・デバイスと統合するように設計されています。ソフトウェア・プラグインは VST2/VST3/AU/AAX またはスタンドアロン・アプリケーション動作で利用可能です。

5.2.1. How does it work?

DAW プラグインとハードウェアユニットの接続が確立されたとき、両方のユニットが同じ状態のパラメータを提示する必要があります。つまり、ハードウェアユニットのフロントパネルで変更された内容はプラグインに表示され、DAW プラグインで変更された内容はハードウェアユニットに表示されるのです。パラメータを変更するたびに、ユニットのアナログ回路にも変更が加えられるので、両方の長所を生かすことができます。



5.3. How to connect a unit to a Plugin-in?

PC/MAC にたくさんの GCon デバイスが接続されている場合、ハードウェアユニットとのプラグイン接続を開始するためにドロップダウンリストから適切な ID を選択してください。これを行うには、プラグインの左下セクションにある小さな三角形のボタンをクリックしてください。



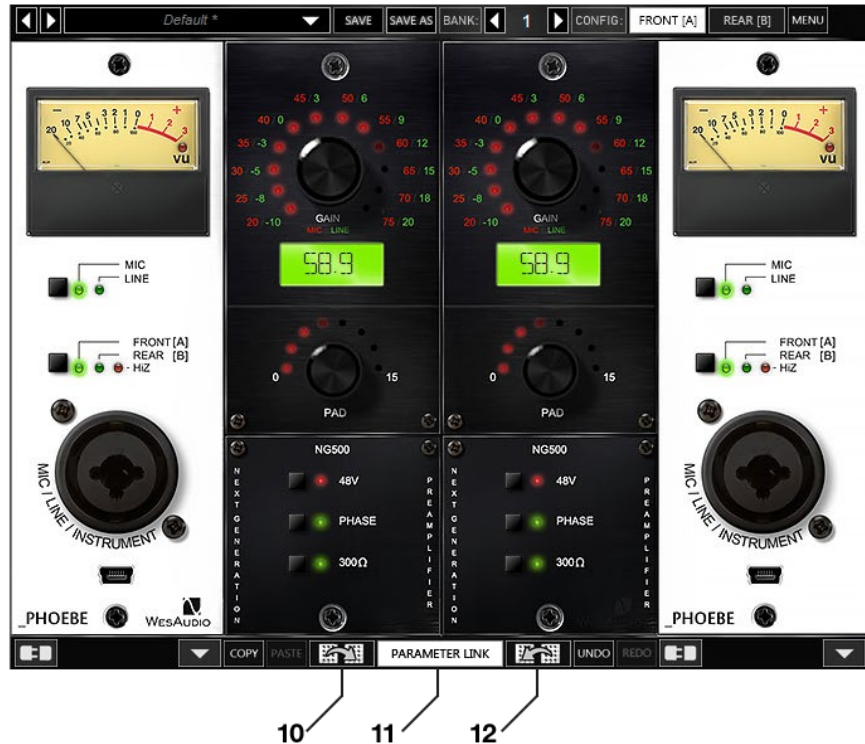
5.4. DAW Plug-ins

以下の章では、プラグインコントロールについて説明します。プラグインのメーターは、フロントパネルのメーターとは異なるスケールと外観を持っていますが、アナログ LED メーターと同様に、プラグインメーターの最大ポイントは出力レベル+24dBu に対応し、メーター上の小さな赤い LED は CLIP 検出を示しています。

この章では、ほとんどのコントロールはハードウェアユニットと同じであるため、参考のために特定のプラグイン・コントロールのみを説明します。

ステレオプラグインは 2 つのハードウェアデバイスに接続できるため、接続に関連するすべてのコントロール（トグル、セレクトなど）は、各チャンネルごとに利用可能です。





- 1) **Config bank:** コンフィグバンク機能では、独立したコンフィグのセット (FRONT[A]/REAR[B]) を呼び出して、いくつかの設定を簡単に比較することができます。このパラメータは自動化することができ、異なるソング、または1つのソングの異なるセクションで、パラメータの異なるスナップショットを呼び出すことができます。
- 2) **Preset menu:** プリセットメニューコントロールでは、プリセットを呼び出したり保存したりすることができます。
- 3) **Config (Front[A]/Rear[B]):** このコントロールでは以下を変更できます。:
 - a. **シグナルソース** フロントパネル XLR/TRS ソケット、またはリア XLR ソケットのいずれかに設定できます。
 - b. **Config パラメータ設定** 各コンフィグ (Rear と Front) は独立した2つのメモリー設定で動作するため (プラグイン A/B と同様)、各コンフィグの設定を独立して保持することが可能です。
- 4) **トグル・コネクション・ボタン:** 接続状態の ON/OFF を切り替えるボタンです。なお、このボタンは「Select connection button」であらかじめ ID が選択されている場合のみ機能します。

5) **接続の詳細:** 追加の接続に関する情報です:

- a. **USB** – モジュールはフロントパネルで直接 USB 接続されています。
- b. **S#X** – Titan フレームで使用可能な機能で、モジュールとフレーム間の内部接続プロトコルが動作していることを意味するスロット番号。
- c. **Connection ID:** 接続されている HW ユニット固有の接続 ID。

6) **Select connection button:** このボタンは、接続されているすべてのデバイスを表示します。エレメント ID の「ドロップダウン」リストが表示されていない場合、それは GCon プロトコルをサポートするデバイスが検出されていないことを意味します。

NOTE: この欄には、**接続状況も表示されます。**

- a. **ON – 白いフォント/標準スタイル:** 接続が確立されている
- b. **OFF – グレーのフォント/標準スタイル:** 接続が確立されていない
- c. **Connecting – グレーのフォント/斜体スタイル** – 接続処理は進行中です。もし、"Connecting "状態が 5 秒以上続き、プラグインがユニットを制御していない場合、次のことを意味します。
 - i. HW ユニットがワークステーションに接続されていない。
 - ii. HW ユニットが何らかの理由で OS から切り離された。
 - iii. その他

7) **コピー・ペースト設定 (Front[A]/Rear[B]):** 現在アクティブな設定 (ファストプリセット) をコピーして、内部プラグインメモリに保存するボタンです。

8) **アンドウ/リドゥ:**

- a. **Undo:** 最後に変更したパラメーターを元に戻す (最大 40 回まで)
- b. **Redo:** 最後に変更したパラメータをやり直す (最大 40 件)

9) **メニュー:** パラメータをデフォルトに戻す追加のオプションもあります

6. Hookup diagrams

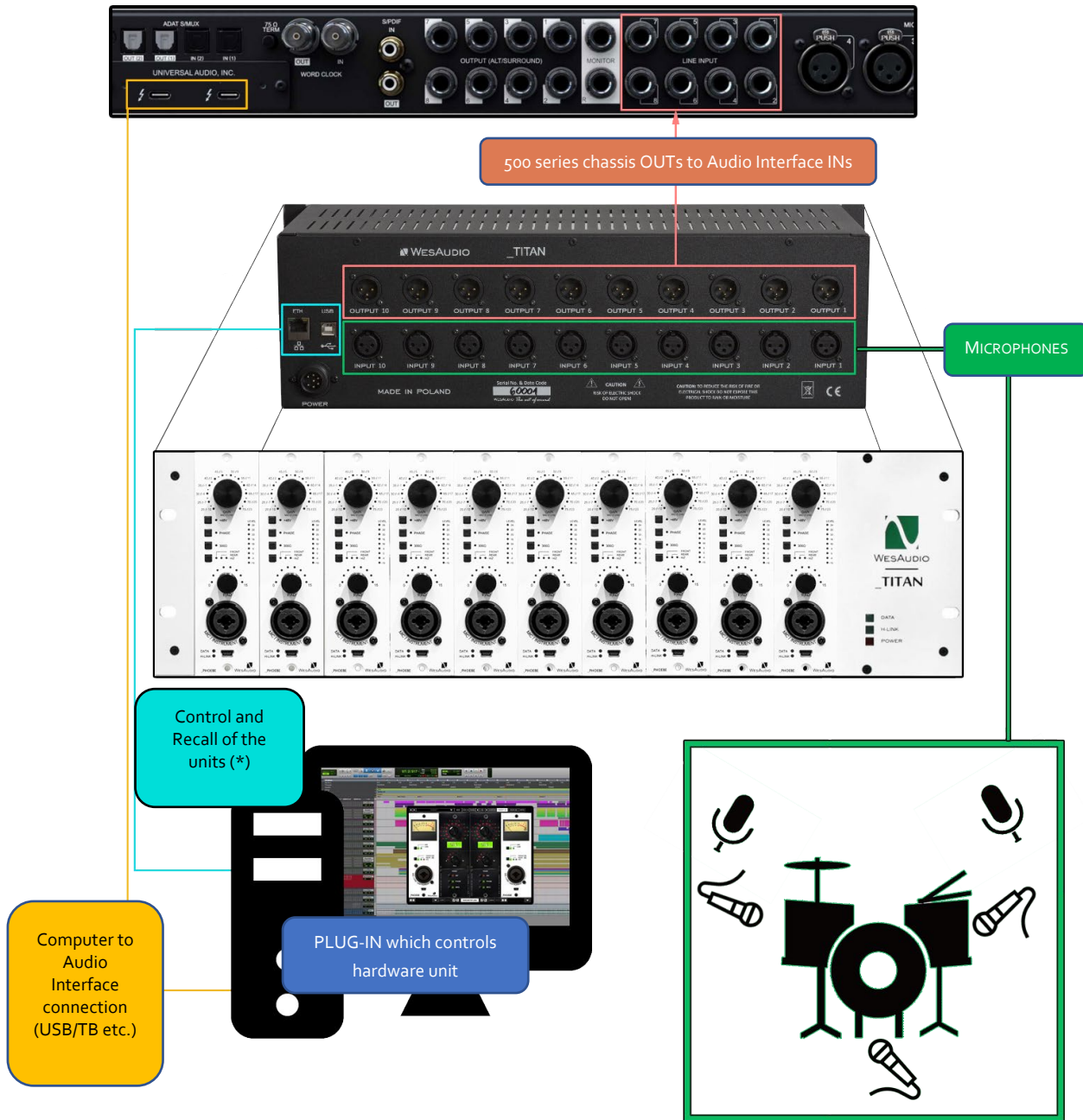
以下の章では、WesAudio デバイスと他のユニットとの接続例を説明します。これらのシナリオの多くでは _PHOEBE に 2 つのソースが同時に接続されています。これは、このソースの信号が完全にリコール可能なため、これらのソースを常に接続したまま、異なる DAW セッションをロードして設定をリコールするだけで接続が完了することを意味しています。

- 1) REAR [B]構成は、各 _PHOEBE の LINE モードに DAW HW インサートを簡単に統合できるように設定されています。

2) FRONT [A]構成は、DAW で簡単に録音できるようにマイク信号を処理します。

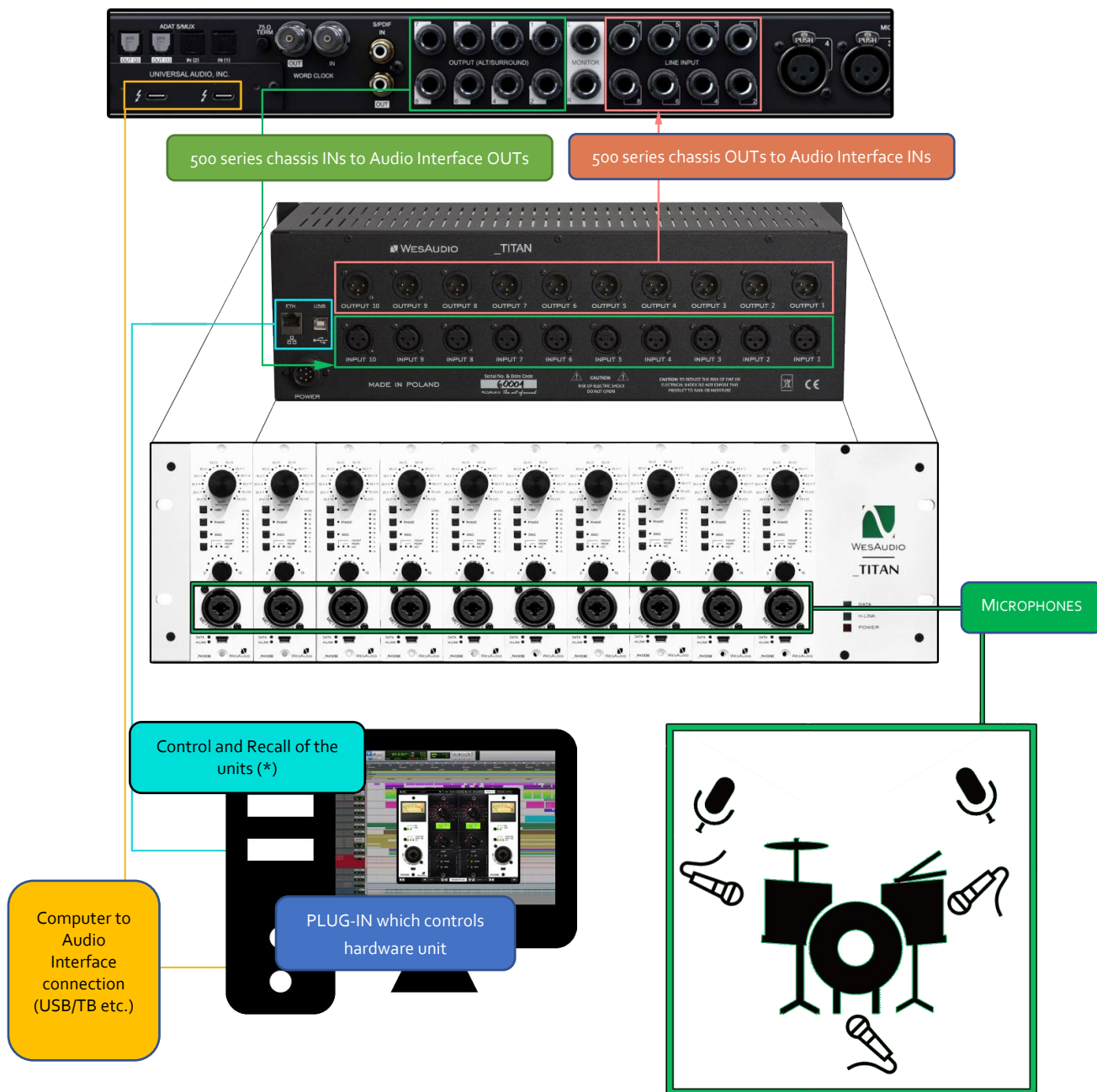
このシナリオでは、プラグインは DAW セッションで使用されたこれらの設定のいずれかを「覚えて」います。プラグインを使用しない場合でも、REAR と FRONT の設定が 2 つの異なる独立したメモリスナップショットに対応していることを忘れないでください。

6.1. Hookup diagram – _PHOEBE in _TITAN: Recording



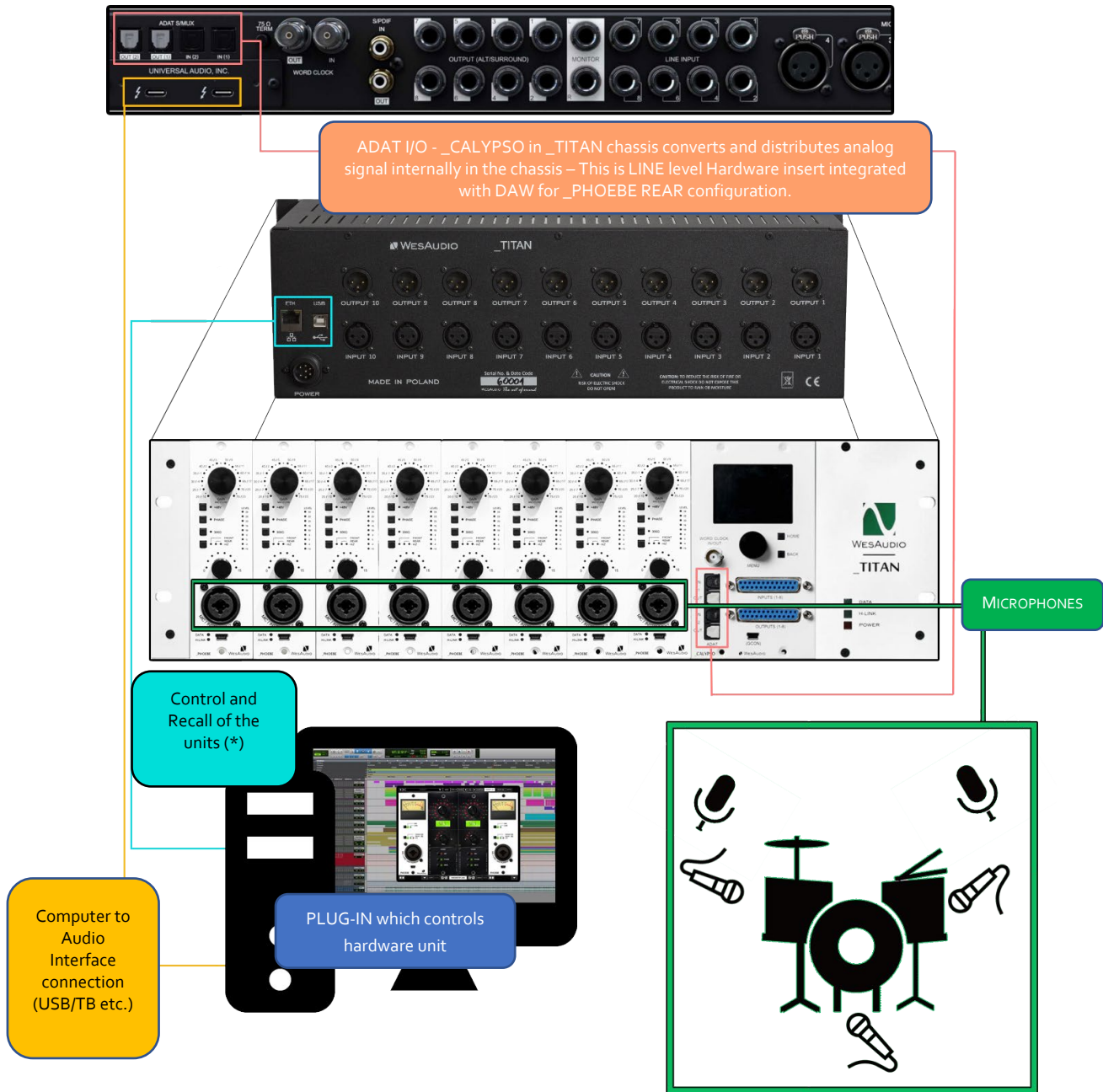
(*) TITAN のイーサネット接続は、_Phoebe と PC/MAC とのダイレクトな USB 接続を必要としないことに注意してください。TITAN を直接ルーターに接続し、ローカルネットワークを使用して TITAN 内のすべてのユニットにアクセスし、制御することもできます。

6.2. Hookup diagram – _PHOEBE in _TITAN: Recording & Mixing



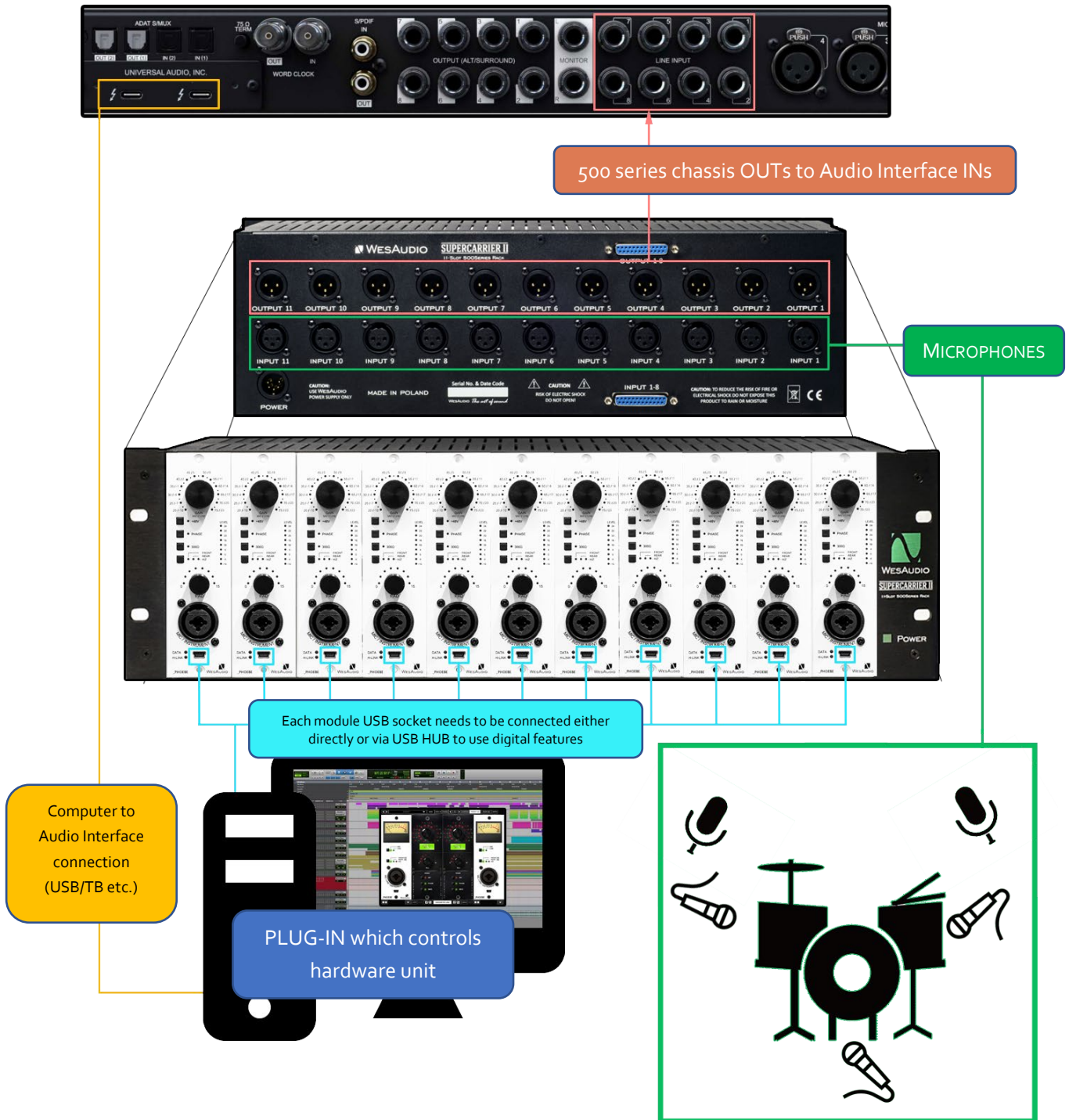
(*) TITAN のイーサネット接続は、_Phoebe と PC/MAC とのダイレクトな USB 接続を必要としないことに注意してください。TITAN を直接ルーターに接続し、ローカルネットワークを使用して TITAN 内のすべてのユニットにアクセスし、制御することもできます。

6.3. Hookup diagram – _PHOEBE and _CALYPSO in _TITAN: Mixing and Recording

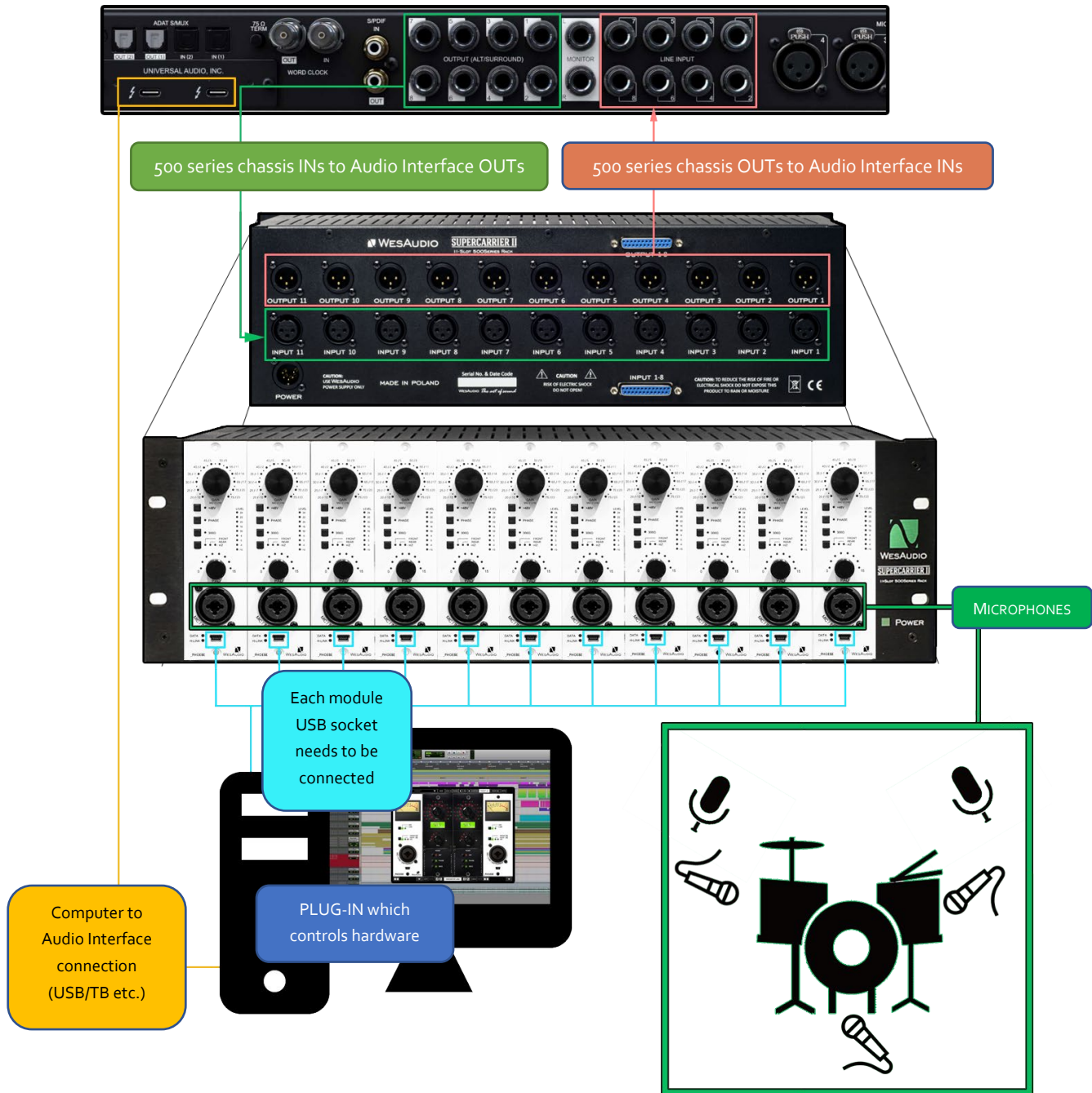


7. (*) TITAN のイーサネット接続は、_Phoebe と PC/MAC とのダイレクトな USB 接続を必要としないことに注意してください。TITAN を直接ルーターに接続し、ローカルネットワークを使用して TITAN 内のすべてのユニットにアクセスし、制御することもできます。

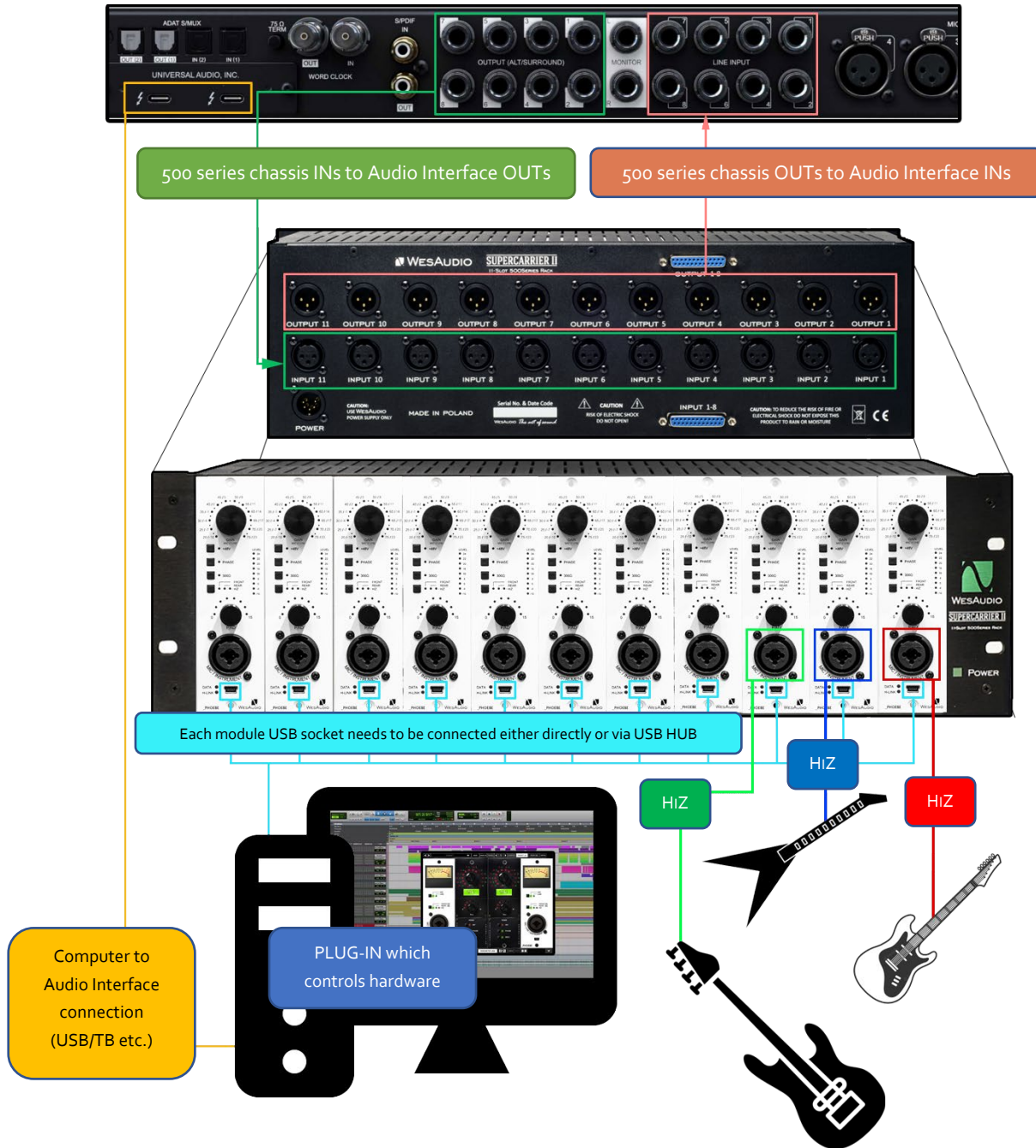
7.1. Hookup diagram – _PHOEBE in 500 Series chassis: Recording



7.2. Hookup diagram – _PHOEBE in 500 Series chassis: Recording & Mixing



7.3. Hookup diagram – _PHOEBE in 500 Series chassis: Recording (HiZ) & Mixing



7.4. Other examples

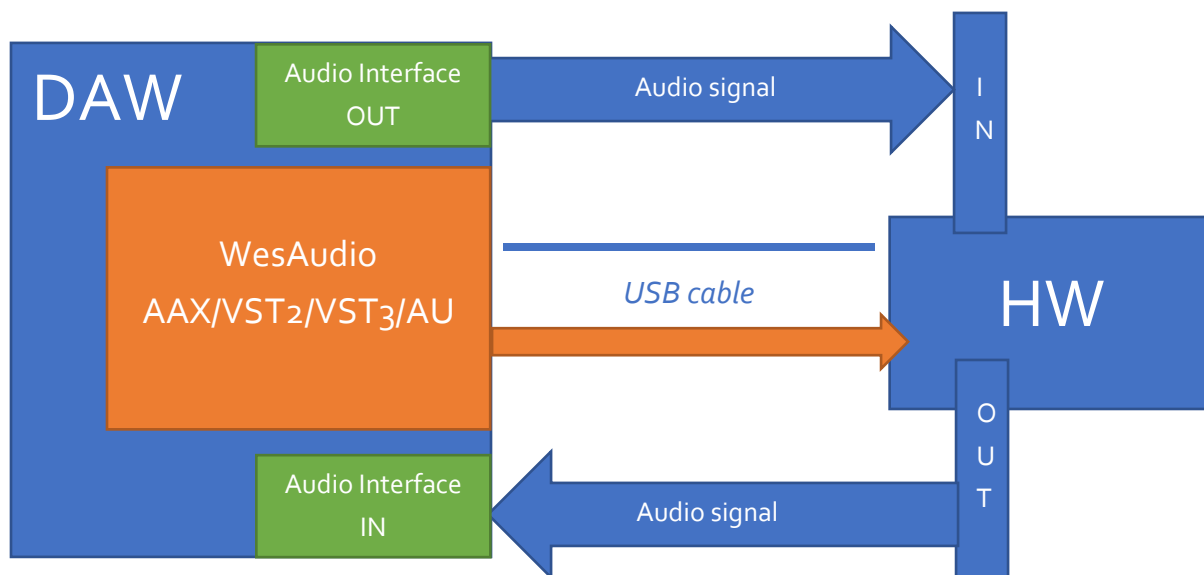
デジタルリコールやデジタルコントロールにかかわらず、すべての WesAudio ユニットは完全なアナログユニットであり、制作のあらゆる録音や後処理段階で使用することができます。

7.5. Setup for mixing

デバイスの設定はシンプルで、管理側も Plug&Play の原則に従っているため、マシンへの物理的な接続以外に必要なステップはありません。

7.5.1. HW insert/External effect in DAW

DAW 内で WesAudio デバイスを使用する場合、HW ユニットとの間でオーディオ信号を送受信する必要があります。以下はその手順を詳しく説明したものです。



環境を整えるには、2つのステップが必要です。:

- デバイスコントロールの設定:
 - USB ケーブルと USB 2.0+ポート(**)を使って、ワークステーションをハードウェアユニットまたは_Titan ラックフレームと接続します。 .
 - HW と一致する WesAudio プラグインをトラックに挿入し、ドロップダウンリストからデバイスを選択します。 .

-
- 接続状態「ON」が点灯すると、デバイスは使用可能な状態になり、セッションアクティビティを保存すると、すべての設定がそのまま保存されます。

- デバイスオーディオの設定:

- DAW でサポートされているあらゆるタイプの外部エフェクトを作成します (例 : Cubase/Nuendo の「外部エフェクト」、Pro Tools の「ハードウェアインサート」)
- WesAudio HW unit IN への "Send "を設定する。
- "Return "を WesAudio HW unit OUT に設定します。
- オーディオインターフェースからの配線をすべて本機の IN/OUT に接続します。
- WesAudio プラグインの後に本エフェクトをインサートします*。

これで、DAW が提供するすべてのデジタル・ユーザビリティ機能を備えた外部オーディオ・ユニットを使って、Box で作業する準備が整いました。

7.5.2. Direct output in DAW

WesAudio デバイスとそのプラグイン管理機能は、あるステージで信号がアナログの世界に送られ、DAW の外で合計されるハイブリッドミキシングに最適なソリューションです。

その方法としては

- ワークステーション(**)または_Titan ラックフレームの USB 2.0+ポートと USB ケーブルを使って HW をマシンと接続します。
- HW に対応する WesAudio プラグインをトラックに挿入し、ドロップダウンリストからデバイスを選択します。
- トラック/AUX 出力をオーディオインターフェイス出力に設定し、WesAudio デバイスに信号をルーティングします。

これで、オートメーションとリコール機能をアナログ領域で使用することができます。

***これはオートメーションにとってのみ重要です :**

実際には、オーディオ信号とプラグインのパラメータは、順番にインサートチェーン全体を介して媒介されるので、外部エフェクトの後にプラグインを保つことによって、ASIO バッファ設定によって引き起こされる小さなレイテンシ（オーディオインターフェイスのレイテンシと同じ）を引き起こすかもしれません（これは最も悲観的なケースで、おそらくそれはとにかく小さくなりますが、HOST（DAW）実装に依存します）。単純に考えれば、このレイテンシは、オーディオをオーディオインターフェイスに送り、そして戻るのに必要な時間と同じでしょう。プラグインを外部エフェクトの前に置いておくと、この不要な効果を「補う」ことができ、デバイスはオーディオ信号がそれを通過する前にパラメータを適用することになります。

** 注 : 公式にサポートされているインターフェイスは USB2.0 です - この USB リビジョンと互換性があるかどうか、USB ハブをチェックしてください。 .

7.7. Memories

- パラメーターの保存方法は、次のようにまとめられます。
- - フロント/リアボタンでトリガー可能な 2 つの高速プリセット。
- - PHOEBE プラグインは、プラグインから利用可能なコンフィグバンクを介して最大 40 個のコンフィギュレーションを保存可能です。

7.7.1. Synchronization upon connection

新しいプラグインインスタンスが DAW にロードされたとき、その状態は未修正、つまりまだ何もパラメータが変更されていない状態です。接続 ID を設定してハードウェアとの接続を開始すると、プラグインはハードウェアから現在のパラメーターの状態をダウンロードし、利用可能な高速設定プリセット（例 : A/B）をダウンロードします。例えば、_PHOEBE プラグインと _PHOEBE ハードウェアの接続が開始され、プラグインが未修正の状態になると、A/B プリセット状態を含むすべてのパラメータ状態がプラグインにダウンロードされます。 .

7.8. Automation

WesAudio のデバイスは、DAW からトリガーされるあらゆるオートメーションに追従することが可能です。デバイスは、高性能のピークに対してテストされています。

注意 : このプリアンプで調整可能な設定のほとんどは、ソース信号にアーチファクトを発生させることに注意してください - これは、設定のほとんどが内部スイッチまたはリレーで管理されており、変更時に常にグリッチが発生す

るためです。また、プリアンプはノイズに非常に敏感で、増幅の性質上、回路を通過するあらゆる形のアーチファクトを誇張してしまいます。しかし、オートメーションは曲間や曲のセクションで使用することができますし、ゲインをごくわずかに変更するだけで、まったく問題なく機能します。

!

7.8.1. Automation record

通常のオートメーション機能に加えて、すべてのノブはタッチセンシティブになっており、ハードウェアユニット自体を使用してオートメーションを記録する可能性をもたらします。DAW でオートメーションの記録を有効にし、HW のノブを動かすだけです!

7.9. Pro Tools Integration

ソフトウェアリリース 2.1 以降、WesAudio プラグインはすべての強力な機能を使用して Pro Tools と統合されます。:

- プラグインインスタンスを "inactive "にすると、プラグインは強制的にアンロードされ、そのためにハードウェアとの接続も解除されます。つまり、新しいプラグインインスタンスを使って同じハードウェアユニットに接続することができ、以前の設定はすべて非アクティブ化されたプラグインに保存されます。1 つのユニットで複数のソースに対して作業を行い、マウスクリック 1 つですべての設定を呼び出し可能にするのに非常に便利です。
- PT12+ - コミット機能 - Pro Tools のコミット機能は、ハードウェアインサートのプリントにも使用でき、WesAudio プラグインと 100%互換性があります。HW インサートと WesAudio プラグインに対してコミットがトリガーされると、プラグインはそのソースから切断され、すべての設定が保存されます。その結果、以下のものが得られます。:
 - アナログプロセッサでプリントされたトラック
 - プラグインインスタンスを通じて不活性化されたトラックに保存されたハードウェア設定。
 - 新しいプラグインインスタンスを使用して、異なるトラックで同じハードウェアに接続することができます。
 - o アクティブでないトラックはいつでも再有効化でき、WesAudio プラグインは自動的にすべての設定を復元してハードウェアに再接続します (プラグインの 1 つのインスタンスが同時にハードウェアに接続できることに注意してください) 。,

7.10. GCon Manager

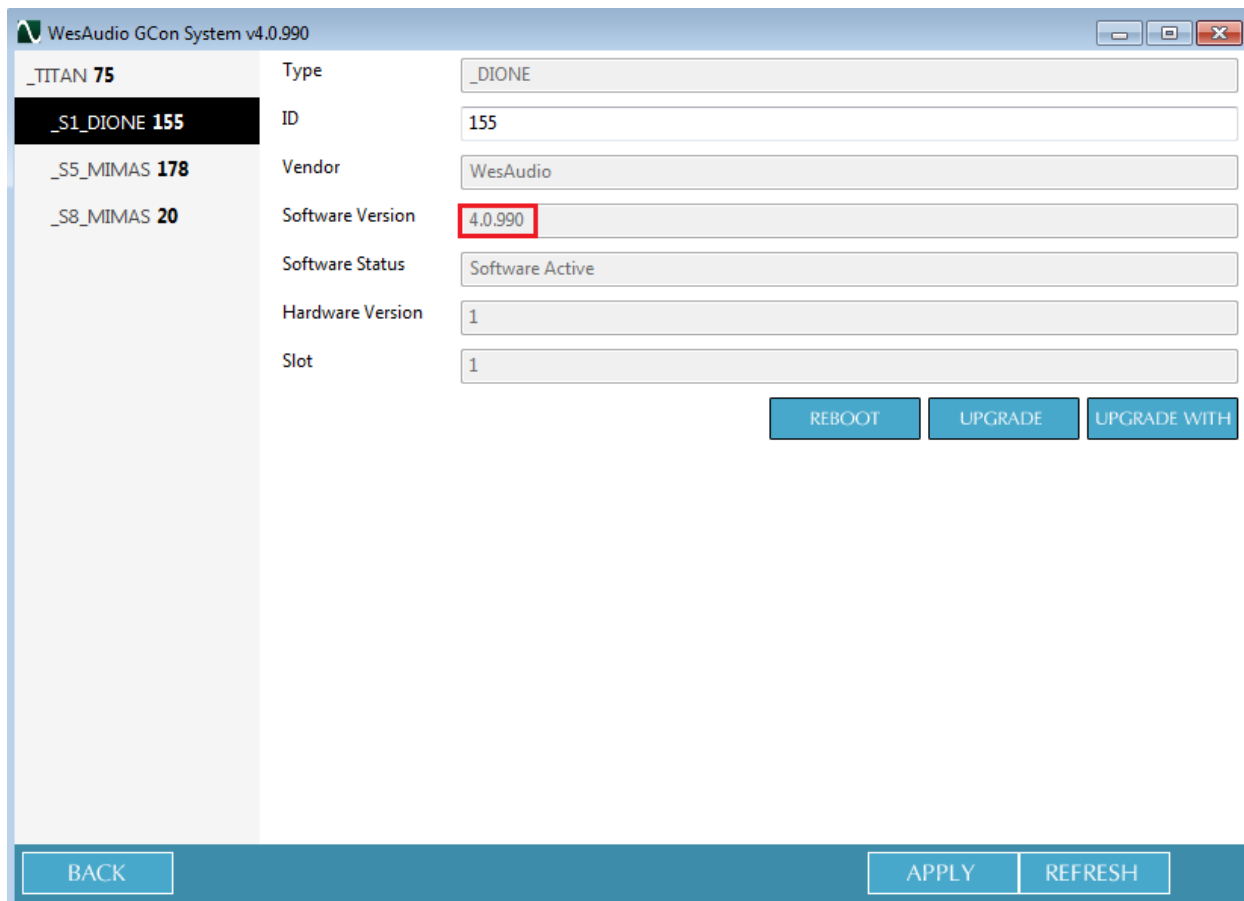
GCon Manager は、互換性のあるユニット上で構成管理を行う汎用アプリケーションです。これは、アプリケーションフォルダのデータにあります。

- - OSX の場合 : `"/Applications/WesAudio/GConManager"`
- - WINDOWS の場合 : インストール段階で指定されたフォルダ、デフォルトでは `"c:/Program Files x86/WesAudio/GConManager.exe"` です。

GConManager は WesAudio の "Tray" アイコンをクリックして "Open GConManager" を選択することによっても起動することができます。

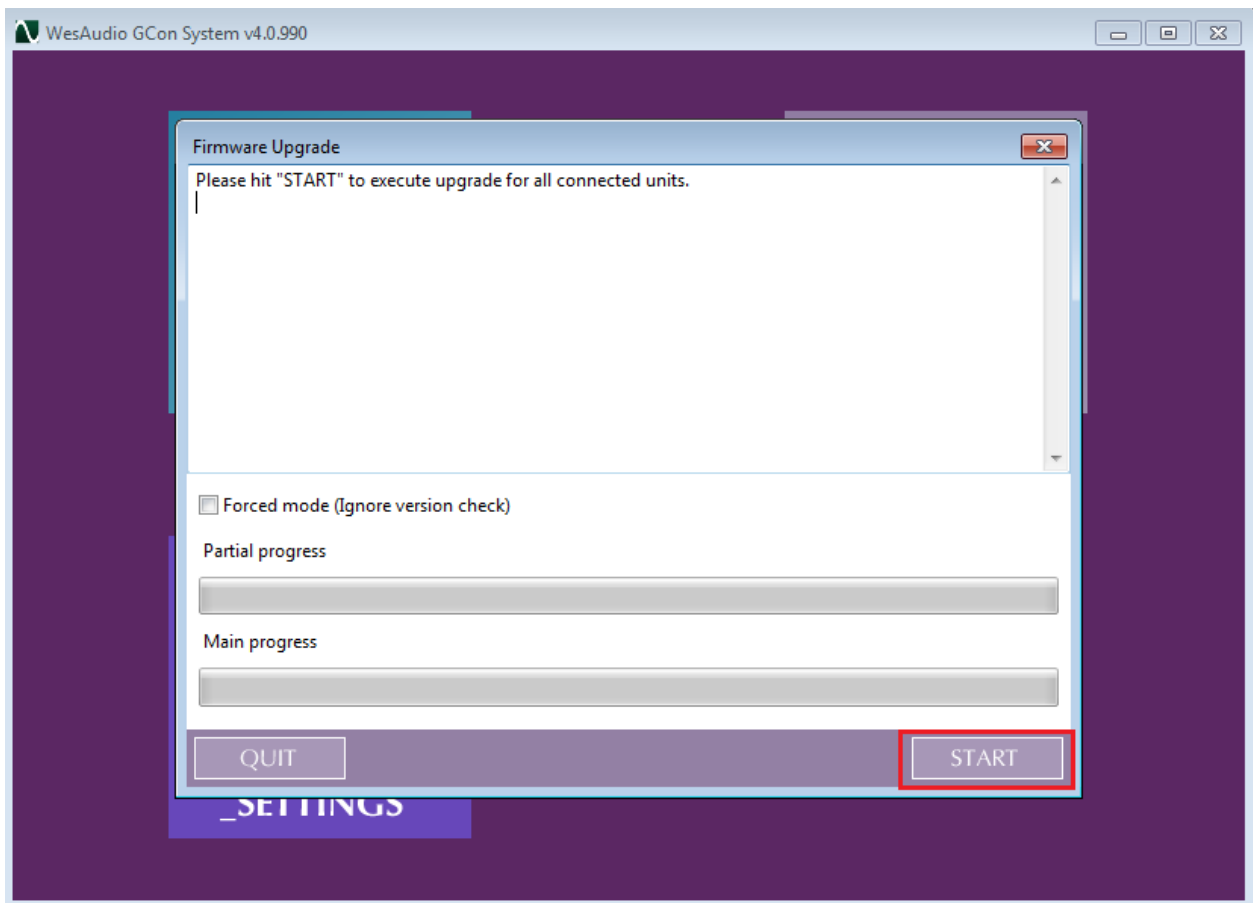
7.16.1. How to check firmware version

各デバイスは、ホストアプリケーションとリモートモジュール間の互換性を示すバージョンをワークステーションに報告します。ファームウェアのアップグレードを確認するにはGCon Manager にアクセスしてください。



7.16.2. How to perform firmware upgrade

ファームウェアのアップグレードを行うには、GConManager アップグレードアプリケーションに移動し、"Start" ボタンをクリックします。これにより、ホストソフトウェアが最新でないすべてのモジュールのアップグレード操作が開始されます。



詳しくはこちらのムービーをご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=RG1t176BfKE>

8. Factory reset

ファクトリーリセットは、内蔵フラッシュメモリにファームウェアを書き換えるもので、本体設定には一切影響しません。ファクトリーリセットは、以下の手順で行ってください。

- 1) 本体を接続します。
 - a. フロントパネルの USB ソケットから
 - b. ただし、シャーシは USB またはイーサネット・ケーブルで PC/MAC に接続する必要があることに注意してください。
- 2) 500 シリーズ・シャーシの電源をオフにします。
- 3) Phase ボタンを押します。
- 4) THD ボタンを押したまま、500 シリーズ・シャーシの電源をオンにします。
- 5) LED が奇妙なパターンを示すはずですが。
- 6) 次に GConManager を開きます。
 - a. WIN: C:/Program Files (x86)/WesAudio/GConManager.exe
 - b. MAC. /Applications/WesAudio/GConManager.app
 - c. または WesAudio の "Tray" アイコンをクリックし、"Open GConManager" を選択します。
- 7) _UPGRADE アプリケーションに移動します。
- 8) スタートボタンを押してください。:

9. Troubleshooting

9.1. モジュールがフリーズし、エンコーダの移動に反応しない

フロントパネルのつまみを変えてもモジュールが反応しない場合、まず、フラッシュメモリーにファームウェアを書き込む必要があります。そのためには、ファクトリーリセットの章を参照してください。それでも解決しない場合はサポートまでご連絡ください。 .

9.2. モジュールがプラグインに接続できない

これは広いトピックであり、少なくともいくつかの根本原因があるかもしれませんが、確認すべきことがいくつかあります。しかし、まず最も重要なことは、GConManager が _CONFIG アプリにこのデバイスをリストアップしていないことを再確認することです。もしそうなら、それは WesAudio ユニットが OS レベルで接続できないことを意味し、以下のいくつかのステップが役に立つかもしれません。:

- - まず、モジュールの接続が正しく行われていることを再確認してください。
- - USB の仕様では、USB2.0 は 5m までしか使えないとされています。しかし、これは接続される周辺機器に大きく依存するため、完全には正しいとは言えません。USB は後方互換性があるため、USB3.0 ケーブルの長さは 2m までと考えるべきかもしれません。そのため、USB 3.0 ケーブルの長さが 2メートルであることを考慮する必要があります。式からそれらの制限を取り除くために、2メートルまでの USB ケーブルを持つことをお勧めします。
- - USB HUB は、これらの問題の非常に一般的な根本原因です。もしモジュールが HUB 経由で接続できない場合、テストのために、ユニットを PC/MAC に直接接続して、問題がそれによって引き起こされないかどうかを検証することが必須です。
- - WesAudio Tray Icon "に添付されたシステム警告にご注意ください。 .

9.3. モジュールが勝手に切断される

USB コントローラは容量が限られているため、ランダムにユニットが切断される原因になっている可能性があります。通常、PC/MAC に多くの USB デバイスが接続されている場合に起こります。通常、本体は正常に動作し、再起動後に動作しなくなりますが、OS の実装に強く依存するため、正確な反応は少し異なる可能性があります。このような現象が疑われる場合は、試しにほとんどの機器を USB ポートから取り外し、PC/MAC を

再起動して、安定性の観点から接続性を再確認してみるとよいでしょう。もし、これが問題の根本的な原因であると結論づけられるなら、PC/MAC から多くの責任を取り除くために、適切な USB ハブ、理想的には TB/USB ドックステーションを使用することをお勧めします。 .

9.4. モジュールが接続できなくなった

もし、ユニットが正常に動作していたのに、突然接続できなくなった (GConManager _CONFIG アプリに表示されない) 場合、USB ラインにいくつかのデバイスが追加され、PC/MAC 内の USB コントローラに問題がある可能性があります。その場合、上記の章 "Module disconnects by itself" の記述を確認してください。 .

9.5. (WINDOWS) 本体がプラグインに接続できない。

インストールレベルで問題がある可能性がありますので、 [this chapter](#) .をご確認ください

詳しくは、FAQ をご覧ください。 : <https://wesaudio.com/faq/>

10. Abbreviations and terms

GCon - アナログデバイスの完全な管理とリコールが可能な高速通信プロトコル。ただし、これはあくまで管理用プロトコルであり、音声信号の転送はその機能の範囲外であることに注意してください。

NG500 - 次世代 500 シリーズ。

NG500 コネクター : 500 シリーズの標準コネクターを拡張し、ピンを追加した特殊なコネクターです。 .

11. History

Editor	Version	Date	Description
Michal Weglicki	Draft	05.09.2022	Draft document created.

Michal Weglicki	V1	13.09.2022	Version 1